# はじめに

## 1. ようこそ教育学へ

本書は，あなたが教育学の基本的な考え方を身につけるうえで助けとなるよう編まれたテキストです。

あなたは，教師をめざす大学生でしょうか。あるいはもっと若い，大学進学で教育学部を考えている高校生でしょうか。いやいや，そんな明確な進路意識からではなくて，もっと漠然と教育学に興味をもった生徒・学生，はたまた，教育とはとくに関係のない仕事をしている方が，趣味で教育学を学んでいるなんていうことがあるとしたら，それはとても素敵なことです。あるいは，かつて教育学を学んだ現役の教師や職員，社会教育関係者，保育者やスクールソーシャルワーカー，スクールカウンセラーなど，子どもを中心とした対人援助職の方が，「学び直し」のために本書を手に取ってくださっているとしたら，とても嬉しく思います。

ともあれ本書は，教育学に興味をもってくださった，そんなあなたを歓迎します。ようこそ，教育学へ。

**教育学はどんな学問？**　しかしそれにしても，そもそも教育学ってなにをやるガクモンなんでしょうか。とくに初学者の方は気になりますよね。詰まるところ教育学とは，「教育とはなにか」を探究する学問です。

と，いかにも深淵な言い方をしてみましたが，すみません，じつはこれ，ある種の「ハッタリ」というか，スローガンみたいなもの

です。一口に教育と言ったって，家庭教育，学校教育，社会教育などさまざまです。日本だけでなく世界中で教育は営まれているし，それぞれに長い歴史があります。「教育とはなにか」なんて，そのどれについてどのレベルで知りたいのか，そもそも「とはなにか」ってどんなタイプの答えが欲しいという話なのか，漠然としすぎて答えようがない，というものです。

実のところ研究者（広義の教育学者）たちは，そんな曖昧模糊とした感じではなく，もっと洗練された問い立てや方法で教育に迫ります。そうした「問いの巧みさ」こそが，教育学の本質とさえいえるかもしれません。教育学とはなにか，それは，教育についての洗練されたさまざまな問いの活動であり，またそれによって明らかにされた知の集積である，といったところでしょうか。

そういうわけで本書では，教育学が明らかにしてきた教育の概念や事実の知識を提示するというだけでなく，それらの知識を導いた「問い」を伝えることを意識しました。問いがあり，それに悩み，試行錯誤し，結果その（暫定的な）答えが導かれるという，この知的な活動にあなた自身が参加すること――これを繰り返す以外に，教育学を学ぶ道はないとわたしたちは考えています。

**教育の探究共同体**　もちろんそれは，「わたし（この本）は何も教えない。自分一人で勝手に考えよ」ということではありません。それどころかむしろこれは，協働学習のすすめです。自分よりも少し先に教育学を学びはじめた人たちの輪（よりよい教育を探究する共同体）に参加して，一緒に考えてみるという。

実際，あなたの目の前には，頼りになる「先輩」がいるでしょう？ そう，あなたが受けている授業を担当する先生のことです。教室には，他の受講生もいるでしょう？ いや独学だから，自分は独りだよ，というあなた。心配はいりません。この本の著者たちは，そんなあなたの「仲間」であり，（学問に携わる者としての）「先輩」

であろうと頑張っている人たちです。そしてなにより，本書で登場する思想家や実践家などの先哲，先達たちが，あなた自身の教育学の強力な助っ人です。

## 2. 本書の構成と使い方

本書は，大きく3つの部で構成されています。

**第Ⅰ部　概念を鍛える：人間形成の理念・思想**　世の中には，ちょっと歯が立ちそうにもない教育の難問の数々があふれています。これに切り込むには「思考の道具」＝概念が必要です。この部では，思想家・哲学者たちの作品の読み解きに取り組むことで，あなたの教育学的思考の道具である概念を鍛えていきます。

扱うテーマ（概念／思考の道具）は，「学ぶ」「教える」「子ども」「学校」の4つです。いずれもみなさんがよく知る日常語ですが，一度（教育の）思想や哲学を通してみることで，それらは，まるではじめて見るものであるかのように変貌を遂げるでしょう。

「教育について，わたしはなにも知らないのでは？」――心の底からそう自覚できたとき，あなたは立派な教育学徒です。

**第Ⅱ部　史実に学ぶ：学校と社会の歴史**　明治以降の日本の教育の歴史を，とくに学校に焦点を当てて学びます。学校は日本の公教育の中核で，だからこそ政治，経済，文化の力学に翻弄されて今日に至ります。

あなた自身のこれまでの成長・発達も，よくも悪くも学校の強い影響下にあったのでは？ 教員志望者にとって，また改革のただ中にある現役教職員や教育関係者の方にとっても，歴史を振り返ることの価値は決して小さくないでしょう。そもそも，公費（税金）で営まれる公教育である以上，学校はこの社会のすべての人々に関係することです。第Ⅱ部は，いわば学校というものの可能性と限界を見極める，歴史の旅となっています。

**第Ⅲ部　これからを教育学する**　実はこの第Ⅲ部は，まずなにより著者たちにとって大きなチャレンジであることを，ここに告白させてください。第Ⅲ部で扱う学力／能力，学校と地域，ジェンダーとセクシュアリティ，テクノロジーという主題はいずれも現在進行形で，だからまだ学問的評価の定まっていない難問です。

定説を手堅くおさえるのがこの種のテキストの定石ですから，評価未定の事柄を論じるのは，なにより著者自身にとってスリリングなことではあります。しかしそれでもこれらの難問は，これからの社会を生きる子どもたちが直面せざるをえないものです。それはこれらの問題が，子どもたちを導き支えようとするすべての大人たちが考えるべきものである，ということを意味します。目を背けることはできない，現在進行形の問題にあえて手探りでチャレンジする――第Ⅲ部はそんな内容になっています。

**教育学の基本書として**　各部の内容の教員養成課程における制度的な位置づけも，ここで少しだけ確認しておきましょう。

第Ⅰ部と第Ⅱ部は，教育職員免許法施行規則に定められた教職課程の科目等のうち，教育の基礎的理解に関する科目中の「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」にあたる内容を扱っており，教職課程コアカリキュラム（「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」）に準拠しています。このこともあり，教育学の基本の修得をうたう本書ですが，内容の重心は教育の思想・哲学及び教育の歴史にあります。

とはいえ，これらは教育学という学問全体の基礎にあたるものです。また，とくに第Ⅲ部を中心に，教育社会学，教育方法学，教育行政学，教育法学等の知見や考え方も意識的に取り入れています。このような内容構成をとることによって本書は，教職の基礎的理解に関わる科目の1つを確実にカバーしながらも，より包括的な意味で，学問としての教育学の基本書であることを追求しています。

**「講義」と「問い」**　各章は3～4節構成を基本とし，さらに各節は「講義」と「問い」で成り立っています。

「講義」は節の主題の概説です。大学の大教室で聴く講義をイメージしています（ちなみに，世界に向けて発信される知の形式である「論文」を意識して，文体は堅めの「である」調です）。ただしこうした概説（大学の講義）は，多くの知識を系統的に得るには有効ですが，「問いを立ててそれに答える」という学問の醍醐味を学習者が実感するのは難しいということがあります。

そこで本書では，その節の主題を扱う優れた研究の成果を，「問いを立ててそれに答える」という形式に再構成して記述する「問い」パートを設けました。ここを読むときは，できれば冒頭部分（問い）で一度立ち止まり，自分なりの仮説やそれを確かめるための方法を想像してみてください。続いて，その問いにプロの研究者はどう答えたのか，その腕前を堪能してください。そうしていくうちにあなたもきっと，「（教育について）問いを立ててそれに答える」という学修，「教育学的思考」を身に付けられるはずです。

**見開き2ページ読み切り**　「講義」も「問い」も，見開き2ページに収まる分量に調整しました。ここには2つの意図があります。

1つは，「最小単位の有意味な（教育学的）思考」を示す，ということです。大学の授業には予習復習が求められていますが，多忙な現代人（学生）には，1つの章を一度に読み通す時間がとれない人も多いのではないでしょうか。そうした事情に対応して，1つの見開きが，「一息」で，またスキマ時間（5～10分程度を想定）でとりあえず読み通せる程度の，小分けされた学修内容となっています。とはいえ，内容を機械的に小分けにするのではなく，1つひとつが過不足なく，質の高い教育学の思考の練習として完結するように心を砕きました。

さらにこうした構成は，目的に応じた柔軟な学修（教育）計画を可能にします。これが2つ目です。実際，「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」は教職課程の必修科目ですが，めざす免許状の種類によって，学修内容の重点は変わる可能性があります。また授業担当者は，単にテキストを順に消化するだけではなく，それぞれ独自の教育内容（自作教材）を授業のなかに組み込む場合も多いと思います。見開き単位で相対的に独立性の高い本書の構成は，学修者の自律的な学修や教育者の専門性にもとづく裁量の余地を拡張すると考えています。

**各種学修サポート**　その他にも，学修者の自律的な学修をサポートするため，本書にはさまざまな工夫が施されています。詳しくは，**Information** およびウェブサポートをご覧ください。

謝辞

本書の執筆にあたって，木村元先生（一橋大学名誉教授）には貴重なご助言を頂きました。イラストレーターの昼間さんは，ステキなイラストを描いてくださいました。そしてなにより，有斐閣書籍編集第2部の中村さやかさんと猪石有希さんのご尽力がなければ，本書はありませんでした。みなさまに深く感謝申し上げます。

2023年8月

著者を代表して　**神代 健彦**

＊本書の印税の一部は，ユニセフへの寄付を通じて世界の子どもたちの支援に役立てられます。

# Information

**〃〃 各種ツール 〃〃**　各章と巻末には以下のツールが収録されています

（章　頭）**Quiz　クイズ**……学びへつながるクイズ

**Answer　クイズの答え**……Quiz の答えと解説

**Chapter structure　本章の構成／関連する章**……章の概要（大まかな流れと Keywords）と，その章に関連する他の章を確認します

**Goals　本章の到達目標**……章のねらいを確認します

**Introduction　導入**……章の入り口となる問いを示す，日常の一コマを舞台とした対話篇です

（本文中）各章 3 または 4 節構成で，さらに各節は，**講義** と **問い**（それぞれ見開き 2 ページ読み切り）で構成されています

**講義**……教育の思想，学校の歴史，教育の時事問題の概説などを通して，教育学の基礎（理論や重要概念）が学べます（「である調」でコンパクトに解説しました）

**問い**……**講義** をふまえつつ，各節の主題に関わって，問いを立て，探究するという「教育学的思考」を養います

**文献にチャレンジ**……**問い** の末尾に，そこでの議論のベースになっている文献を紹介しています

（章　末）***Report assignment*　レポート課題**……授業のリアクションペーパーや復習に使える問題です

***Further readings*　次に読んでほしい本**

***Book/Cinema guide*　読書・映画案内**

（巻　末）**引用・参照文献／資料**……本文中で引用・参考にした文献情報一覧です

**索　引**……重要用語を精選しました

**〃〃 ウェブサポートページ 〃〃**

本書での学修をサポートする資料として，本書の各種ツールのほか，本書には掲載していないオリジナルの資料や，講義の補助教材（図版，動画，リンク集等）などを提供していきます。ぜひご活用ください。

https://www.yuhikaku.co.jp/yuhikaku_pr/y-knot/list/20006p/

# 目　次

はじめに …… i
著者紹介 …… vii
Information …… ix

## 第Ⅰ部　概念を鍛える
人間形成の理念・思想

第1章　知に恋い焦がれる学び …… 3
エロス，イデア，不知の自覚

1　学びの秘訣は愛（エロス） …… 6

講義　古代ギリシアの哲学者　6
哲学者に「学び」を学ぶ（6）　古代ギリシアの民主制（6）　ソクラテス（前470頃–399）（7）　プラトン（前427–347）（7）

問い　本当の学びとは？　8
『饗宴』（8）「思い込み」を砕く（8）　善美を欲する精霊エロス（9）　理想的な学び（9）

2　イデア：その教育学的意味 …… 10

講義　プラトンのイデア論　10
イデアとは（10）　哲学は死の練習（10）　哲人王への道（10）

問い　2400年前の哲学を学ぶ意味は？　12

なぜ美しい？（12）　価値ある生き方（13）

3　探求する虻の話 …… 14

講義　不知の自覚　14

『弁明』のソクラテス（14）「知っている」という思い込み（14）　虻としてのソクラテス（15）

問い　小さなソクラテスたちのためにすべきことは？　16

哲学対話の一コマから（16）　虻を愛する（17）

第2章　教えることの思想史 …… 19

神の恩寵から人間の技術へ

1　キリスト教にみる教育 …… 22

講義　キリスト教の人間理解　22

キリスト教（22）　キリスト教の人間観（22）　人間の最終目的と真の教師（23）

問い　古代のキリスト教徒は教育をどう考えた？　24

教育は記号によって可能になる（24）　記号による教育は不可能？（24）　内なる教師キリスト（25）

2　人間の技術としての教育 …… 26

講義　コメニウスの教授学　26

コメニウスとその時代（26）　人間教師の教える技術（27）　自由な「学び」を抑圧する一斉教授？（27）

問い　世界初の絵入り教科書にはどんな工夫がある？　28

『世界図絵』が開く世界（28）　言葉と世界を教える／学ぶ（28）「あらゆる事柄を」（29）

3　3種類の「教える」 …… 30

講義　ヘルバルトの「教職の科学」　30

教育学の誕生（30）「教える」の正体①：管理（30）「教える」の正体②：教授（31）「教える」の正体③：訓育（31）

歴史的なものとしての「教える」(31)

問い 教えることと学ぶこと，その関係は？ 32

大村の「管理」／「訓育」(32)　大村の「教授」(33)

第3章 子どもが育つということ …… 35

出会い，遊び，発達

1 子どもという存在 …… 38

ロックとルソー

講義 子どもの「発見」と教育 38

ロック：生後の経験がすべて (38)　ルソー：生まれつき備わった素質 (38)　子ども観と発達観への影響 (39)

問い すべての子どもの「子ども期」を支えるには？ 40

子育て支援の現状 (40)　「家族」からこぼれ落ちた子どもへの支援 (40)　支援のその後の課題 (41)

2 子どもの自己形成を支える方法 …… 42

フレーベルと倉橋惣三

講義 自ら育とうとする存在への援助 42

遊びを通した発達へのまなざし (42)　日本における幼児教育の契機 (43)

問い 遊ぶってどういうこと？ 44

遊びは自由 (44)　遊びの主導権は誰のもの？ (45)

3 子どもの育ちへのまなざし …… 46

講義 概説・発達理論 46

ピアジェ (46)　ヴィゴツキー (46)　ブルーナー (47)

問い 子どもが「発達する」姿って？ 48

子どものほうが，大人よりも論理的？ (48)　試行錯誤し，自ら学ぶ (48)

第4章　学校という難問 …… 51
改革と批判の哲学

1　近代学校の誕生 …… 54

講義　学校とはなにか？　54
日常生活を営むための学校（54）　劣悪な環境から子どもたちを守るための学校（55）　秩序ある社会の一員を育てるための学校（55）

問い　学校はなぜ大切なのか？　56
教育基本法における学校の目的（56）　学校の社会的機能と選抜機能（57）

2　学校改革の思想 …… 58
デューイ

講義　学校改革の過去と現在　58
デューイ：学校と社会をつなぐ思想（58）　PBL（59）

問い　学校教育の目標とは？　60
子どもを未来とつなぐ（60）　子どもを過去とつなぐ（61）

3　近代学校批判の論理 …… 62

講義　学校とわたしたちの生（life）　62
「監獄」のメタファーとしての学校（62）「ともに歓びをもって生きること」の復権をめざして（63）

問い　「野郎ども」にとっての学校とは？　64
「野郎ども」のまなざし（64）　学校化社会と「野郎ども」／「耳穴っ子」の生きづらさ（64）　他者とともに生きるために（65）

## 第Ⅱ部　史実に学ぶ
学校と社会の歴史


第5章　日本における近代学校のはじまり …… 69
1870–1900 年代

1　日本における近代学校のはじまり …… 72

講義　学制発布　72
学制にみる学校設置の目的（73）　教育の自由化と統制：1879・80 年教育令（74）　義務教育制度の確立へ：1886・1900 年小学校令（74）

問い　学校に「行かない」のはなぜ？　76
学制発布直後に生じた不就学の理由（76）　就学率上昇への取り組み（77）

2　学校における「人間形成方式」…… 78

講義　学校で学ぶ心身をつくる：学年制，時間割，教授法　78
学級の誕生：等級制から学年制へ（78）　時間割と遅刻の成立（78）　一斉教授法と生徒の管理（79）

問い　時間割ってなぜ必要なの？　80
現代日本の時間割の起源（80）　定式化した時間割に対する批判（80）

3　教育の近代と伝統 …… 82

講義　知育と徳育　82
修身の設置（82）　徳育論争（83）

問い　教育勅語ってどう読める？　84
天皇への忠誠と愛（85）　天皇主義的道徳（85）

4　モノとコトからみる学校 …… 86

講義　学校を変えたモノ：学校のモノはじめ　86

筆と和紙から石筆と石盤へ（86）　洋紙の広がりと教科書の普及（87）　ノートと鉛筆が変えた学校（87）

問い　卒業式はどのように変わってきたの？　88

卒業式は試験のクライマックスの場だった（88）「感情の共同体」としての学校（89）

第6章　大衆化する教育 …… 91
1910–30年代

1　教育の大衆化とエリート文化 …… 94

講義　教育の大衆化　94

義務教育の普及（94）　義務教育後の学校（95）　大衆教育社会の黎明（95）　自由と平等を阻むもの（95）

問い　大正期のエリート男子を魅了した「教養」とは？　98

教養主義の誕生（98）　明治から大正へ（98）　大正から昭和へ（99）　現代の教養は？（99）

2　家族と女性の近代 …… 100

講義　近代家族の良妻賢母　100

近代家族とはなにか（100）　近代家族は教育家族（100）　良妻賢母という思想（101）　良妻賢母の再編（101）

問い　少女雑誌が育んだ「少女」文化とは？　102

「少女」という存在（102）　芸術主義と清純主義（103）

3　子ども中心の文化と教育 …… 104

講義　『赤い鳥』と大正新教育，生活綴方　104

童心への着目（104）　大正新教育の展開（104）　生活綴方の展開（105）

問い　新教育を実践した先生ってどんな人？　106

「教育の事実」（106）　実践と理論をつなぐ（107）「学問する教師」たち（107）

第 7 章　戦時下の教育，そして戦後へ …… 109
1940–50 年代

1　戦時下の教育と子どもたち …… 112

講義　教育から「皇国民の錬成」へ　112
総力戦体制と教育（112）　錬成とはなにか（112）　戦争のための教育改革（113）　錬成の矛盾／教育の崩壊（113）

問い　少国民ってどんな子ども？　114
「少国民」とはなにか（114）　戦争資源としての子ども（115）

2　戦後教育の理念 …… 116

講義　戦後教育改革　116
軍国主義の排除へ（116）　新しい教育制度の模索（116）　国民の権利としての教育（117）　「国民」をめぐって（117）

問い　民主主義の学び方とは？　118
社会科と『民主主義』（118）　『民主主義』の民主主義観（118）　民主主義の「心」の学び方（119）

3　戦後教育をめぐる政治の構図 …… 120

講義　教育における「保守と革新」　120
教育の再中央集権化（120）　教育をめぐる保守と革新（121）　戦後教育をどうみるか（121）

問い　変遷する教育委員会の背後にあるのは？　122
教育委員会の 3 つの理念（122）　教育委員会の大改革（123）　保革対立のなかの教育委員会（123）

第 8 章　成長する経済，そのとき若者は …… 125
1960–70 年代

1　「右肩上がり」の時代 …… 128

講義　高度経済成長期の若者たち　128

高度経済成長（128）　重宝される「金の卵」たち（128）　高まる高校進学熱（129）

問い　働く若者が学び続けた理由は？　130

村の若者の教養ブーム（130）　教養のための定時制（130）　教養熱の「冷却」（131）

2　成長する社会の教育 …… 132

講義　人的能力開発政策とその帰結　132

人的能力開発政策（132）　政策意図と現実のすれ違い（132）　日本の労働市場と教育（133）

問い　「高卒当然社会」の到来でなにが変わった？　134

ベビーブーマーの高校進学熱（134）　高校進学熱の皮肉な結末（134）　集合的に生まれる教育の事実（135）

3　成長の陰で …… 136

講義　環境破壊に抗する教育　136

健康に発達する権利の侵害（136）　住民たちの異議申し立て（137）　公害教育の出発（137）

問い　環境問題を教えられる教師になるには？　138

公害スタディーズのすすめ（138）　公益に配慮できる教師（139）

第9章　問われる学校の価値 …… 141
1980年代以降

1　黄金時代の終わり …… 144

講義　教育問題の諸相　144

受験競争（144）　非行と管理主義（145）　いじめ（145）

問い　長期欠席の推移はなにを意味する？　146

減少する長期欠席（146）　不登校（登校拒否）への注目（147）

2　問い直される日本型公教育 …… 148

講義 臨時教育審議会　148

日本型公教育の動揺（148）　処方箋としての「自由化（市場化）」（149）「個性重視の原則」とその後（149）

問い 教育の自由化（市場化）のなにが問題？　150

学校選択制とは（150）　日本の近未来＝アメリカ？（151）　格差の再生産（151）

3　公教育の「公」をめぐって …… 152

講義 新しい教育基本法の論点　152

教育を手放す国家？（152）　国民形成機能の強化（152）

問い 日本の学校はグローバル時代にふさわしい公教育機関か？　154

外国にルーツをもつ子ども（154）　日本の教育の排他性（154）　グローバル時代の公教育（155）

第Ⅲ部　これからを教育学する

第10章　学力／能力を教育学する …… 159

1　学力という難題 …… 162

講義 学力論の論点　162

学力は論争的（162）　学力論争のはじまり（162）　2つの学力モデル（163）　態度的なものの行方（163）

問い 全国学力テストはなんのため？　164

政策のためのテスト（164）　PISAの「リテラシー」（164）　日本の学力テストの独特さ（165）　指導のためのテスト（165）

2　資質・能力／コンピテンシー …… 166

講義 グローバル社会を生き抜く力　166

資質・能力とは（166）　グローバルな能力概念（167）　VUCA時代の能力論（167）

問い　コンピテンシー・ベースのメリットと危うさとは？　168
コンピテンシー・ベースとは（168）　コンピテンシーの危うさ？（169）

3　格差の再生産 …… 170

講義　教育格差を考える　170
メリトクラシーは希望？（170）　メリトクラシーの害悪？（170）「緩やかな身分社会」（171）　格差と学校（171）

問い　「親次第」の社会を生きるつらさとは？　172
「親次第」の社会（172）　教育におけるマタイ効果（173）　親たちの不安（173）

第11章　学校と地域を教育学する …… 175

1　震災と学校 …… 178

講義　学校の被災と復興　178
東日本大震災（178）　3. 11 の学校（178）　復興の形をめぐって（179）　地域復興のシンボルとしての学校（179）

問い　被災地の学校のその後は？　180
B 中学校から H 中学校へ（180）「震災への自由」（181）　ケアの学校文化（181）

2　子どもをケアする学校と地域 …… 182

講義　学校と地域で取り組む「子どもの貧困」対策　182
子どもの貧困（182）　学校と地域による子ども支援（183）　チーム学校（183）　プラットフォームとしての学校（183）

問い　「しんどい学校」の教員文化とは？　184
「しんどい学校」で求められる仕事（184）「しんどい学校」の教員文化（184）　教育改革と教員文化（185）

3　人口減少社会と学校の挑戦 …… 186

講義　人口減少というリスク　186

人口の過去・現在・未来（186）　地方（地域）の危機（187）
地域の衰退と学校（187）

**問い　高校改革で地域づくり？**　188

高校魅力化プロジェクト（188）「地域学」（188）「だんだんカンパニー」（188）「サクラマス・ドリーム・プログラム」（189）　地域を救う「地域内よそ者」（189）

## 第12章　ジェンダーとセクシュアリティを教育学する　191

### 1　ジェンダーを教育学する　194

**講義　ジェンダーの歴史が明らかにしたこと**　194

**問い　「男らしさ」「女らしさ」って？**　196

### 2　性のタブーを乗り越える　198

**講義　性を知ること，性を考えること**　198

基本的人権と性教育（198）　乳幼児期からの性教育（199）

**問い①　日本の性教育はどうなっている？**　200

科学的知識の欠如（不足）（200）　子ども自身が考える性教育実践（201）

**問い②　性の知識があることはリスクなの？**　202

「生命（いのち）の安全教育」の課題（202）　子どもたちがオープンに議論できるようになると……（203）

### 3　多様性を尊重する社会へ　204

**講義　セクシュアリティの多様性**　204

**問い　個人や家族が多様ってどういうこと？**　206

「最小の結婚」という構想（207）

## 第13章　テクノロジーを教育学する　209

### 1　学校の現在　212

**講義** **テクノロジー×学校** 212

「令和の日本型学校教育」(212)　2つのコンセプトとICT(212)　「未来の教室」事業(213)

**問い** **EdTechで学校はよくなるの？** 214

「AI先生」が子どもを救う？(214)　EdTechも使い方次第(214)　EdTechとどう向き合う？(215)

**2　公教育の未来** …… 216

**講義** **再論・公教育** 216

公教育の「公」の意味(216)　揺れる日本型公教育(216)　学校に代わる学びのインフラ？(217)　公教育の進化？(217)

**問い** **これからの公教育はEdTechで万事OK？** 218

一生涯の学びの友？(218)　アフィニティスペースの学び(218)　共通文化の喪失？(219)

**3　教育の次に来るなにか** …… 220

**講義** **能力開発の新技術** 220

データ駆動型教育(220)　ヒューマン・エンハンスメント(221)　機械と人間のハイブリッド(221)　性格や能力の改変(221)

**問い** **ヒューマン・エンハンスメントって悪いこと？** 222

HEは脳を不可逆的に変えてしまう(222)　HEは格差を広げる(223)　HEは努力による人間的成長を阻害する(223)　あなたはどう考える？(223)

引用・参照文献／資料 …… 225

索引(事項／人名) …… 231

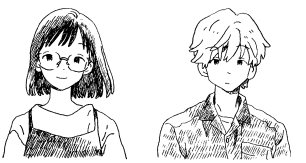


イラスト　昼間

# 学校という難問

改革と批判の哲学

第4章 Chapter

## Quiz クイズ

学校（school）の語源としてのスコレ（skholē）。その意味は？

**a.** 余暇　**b.** 感動　**c.** 準備　**d.** 強制

★本章の学習をサポートするウェブ資料は，右の QR コードよりご覧いただけます。

## Answer クイズの答え

**a.** 余暇

ギリシア語のスコレ（skholē）は余暇を意味します。私たちにとって学校は，どちらかというと将来のための準備，勉強が強いられる場所という印象が強いはずです。せわしない＝将来の準備の場としての学校と，ゆったりとした＝余暇の場としての学校。私たちが自ら知を求め，心動かされる経験を得るためには，なにが必要なのでしょうか。

## Chapter structure 本章の構成／関連する章

**1　近代学校の誕生**
Keywords
近代学校／学校の目的と機能

**2　学校改革の思想**
Keywords
仕事（occupation）／PBL／新教育

**3　近代学校批判の論理**
Keywords
規律権力／学校化（社会）／シャドウワーク

［関連する章］

- 第 5 章 日本における近代学校のはじまり
- 第 2 章 教えることの思想史
- 第 3 章 子どもが育つということ
- 第 10 章 学力／能力を教育学する
- 第 8 章 成長する経済，そのとき若者は

## Goals 本章の到達目標

1. 近代学校の目的や機能について，その誕生の背景をもとにして理解する
2. 現代に連なる学校改革の思想と歴史について理解するとともに，近代学校批判，新教育批判に対する一定の見解をもつ

## Introduction 導入

あなたの学校観診断「学校はまるで……でした」

アオバ先生

ここは，とある地方大学の教職課程科目，教育学概論の一コマ。

講義室のスクリーンに「学校はまるで監獄でした」というフレーズが映る。突然のことで受講生たちはザワザワしているが，新任のアオバ先生はまったく気にすることなくプリントを配りはじめた。

【あなたの学校観診断】
各自の学校経験をもとに，空欄に言葉を埋めなさい。
学校はまるで［　　］でした。

受講生 100 名弱のクラス。プリントが全員に行き渡ったのをみて，アオバ先生は語りはじめる。

アオバ先生「今日の講義のテーマは，あなたの学校観診断です。受講生各々の学校イメージを共有し，分析してみましょう。まずは各自で，プリントの空欄を埋めてください」

学生たちはさまざまな言葉を使って，学校を表現していく。

「学校はまるで工場でした」
「学校はまるでもう 1 つの家でした」
「学校はまるで軍隊でした」
「学校はまるで天国と地獄でした」
「学校はまるで遊園地でした」

少し時間をおいてから，アオバ先生はよびかけた。

アオバ先生「では，なぜそのような言葉を選んだのかについて，グループのメンバーに説明してみましょう。そのあと，グループメンバー全員で，各自の学校イメージを分析していきます。あなたの学校観診断，スタートです !!」

学校はどのような場所なのか？

# 1　近代学校の誕生

## 講義　学校とはなにか？

わたしたちが**学校**とよぶ場所とは，いかなる目的から生まれ，今日に至っているのか。その起源を考えるにあたって，ここでは，イギリスの近代学校の系譜に沿って，**公教育学校＝近代学校**の3つの性格について確認する。

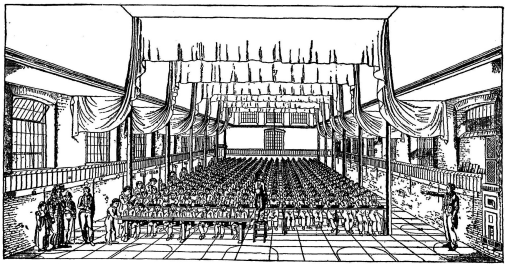
**日常生活を営むための学校**　17世紀から19世紀初頭にかけてのイギリス社会では，高齢の未婚女性や寡婦が自宅を開放し，隣近所の子どもたちに読み書き算を教えていた。ここでは（写真）のように子どもたち一人ひとりを傍らに呼び寄せ，そこで読み書き算を教えるといったようなスタイルがとられた。とはいえ，そこで教えられる内容は決められたものではなく，ときには裁縫や刺繍など**日常生活**の手伝いをさせることもあったといわれている。

**デイム・スクール**（dame school：「おばさん学校」）とよばれるこのような学校では，暮らしのあらゆるものが「教材」であり，あらゆる場所が「教室」であった。しかし19世紀に入り，公教育学校がイギリス社会に広がりをみせるなかで消失していった。

**デイム・スクール**（写真提供 ユニフォトプレス）

**劣悪な環境から子どもたちを守るための学校**　産業革命後の18世紀末のイギリスでは，子どもたちが家計の担い手として工場で働いている状況（児童労働）が問題となった。それに対して，子どもたちを劣悪な環境から守らなければならない，というボランタリズムの精神をもとに慈善団体や宗教団体が設置したのが，**慈善学校**（charity school）である。労働者の保護，児童労働の制限を目的とする工場法の制定（1802年）にも影響を与えた同校は，衣服の提供を行うなど，教育施設というよりも福祉施設に近い取り組みが行われており，現代的にいえば貧困対策事業といえる内容を有するものであった。

**秩序ある社会の一員を育てるための学校**　同じく18世紀末のイギリスでは，子どもたちに対して**効率的な教育**を提供すること，謙虚・勤勉をはじめとする秩序意識を形成することが課題となっていた。その方法として広がりをみせたのが，A. ベルやJ. ランカスターによる**モニトリアル・システム**である（下図）。モニトリアル・システムとは，成績優秀な生徒は，教師の補助役（助教：モニター）として他の生徒の指導を担うという，2段階の能力別集団編成による指導体制のことである。できるだけ多くの子どもたちを1つの空間に集めて効率的な学習を進めるためのシステムであり，そこで教師は子どもたちが真面目に勉強に取り組んでいるのかを監視し，競争を促し，賞罰を通して管理を行うことで，秩序ある集団をつくろうとしたのである。



モニトリアル・システム

（出所）　Cubberley 1920.

## 問い　学校はなぜ大切なのか？

本節 講義 では公教育（学校）の起源（その目的や機能）について学びましたが，一方で「学校に行くことに意味があるのか」「学校で学ぶ知識より世の中での経験のほうが大事なのではないか」といったことを考えたり，感じたりしたことはないでしょうか。このような学校の語り方は，実体験にもとづくものとして説得力があります。それに対して，学校の意義について説明することは，意外と難しいように思われます。「学校はなぜ大切なのか」について，どのように説明しますか。

**教育基本法における学校の目的**　ここではまず，公教育の目的について定めた，**教育基本法**の 1 条を確認してみます。

> 教育は，人格の完成を目指し，平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

公教育の目的には「人格の完成」「平和で民主的な国家及び社会の形成者」「心身ともに健康な国民の育成」の 3 つがあると挙げられています。これらをもとに学校で学ぶことの意義を考えてみます。

まず**人格の完成**についてです。学校教育では，知識を身につけさせることだけが目的になってはならず，社会が求める既存の価値観を形成していくことだけが目的になってもいけない。個々人のもつ力を最大限かつ全体として育むことが「人格の完成」をめざす，ということになります。

次に**平和で民主的な国家及び社会の形成者**についてです。ここでは「形成者」ということばが用いられていることが重要です。学校教育の目的は「国家の担い手を育てる」ことや「社会に適応する」

ことに限定されてはならず，一人ひとりが未来の国のあり方を考え，社会をつくる主人公として生きていくことを支えることにある，ということになります。

最後に**心身ともに健康な国民の育成**についてです。先に述べた2つの目的を達成するためには，健やかな心身の育ちを保障することが欠かせません。とくに子どもに関しては，成人と比して自らを守ることが困難であり，まわりの大人たちが成長・発達を支え，見守る責任があります。学校に保健室があって養護教諭がいることや，給食の時間があって栄養教諭がいることなどは，この目的によるものといえます。

**学校の社会的機能と選抜機能**　他方で，学校が社会において果たしている役割（機能）に着目してみましょう。ここでは2つの機能を紹介します。1つは，**社会化機能**です。学校という場は，学級における先生や同級生，先輩たちとの関わりのなかで社会的な存在としての自己を発見していく役割をもっています。もう1つは，**選抜機能**です。近代以前では人の身分が生まれつき決められたものであったのに対して，近代以降，一人ひとりの資質や適性などによってその後の人生（職業や経済的状況などの社会的地位）が左右されるようになります。このとき学校は，テストに代表されるように，子どもたちの学習成果をなんらかの指標を定めて測定し，成果に応じた社会的地位を与える役割を担っているともいえます（広田 2022）。

以上のように**学校の目的と機能**に分けて説明してみることで，学校は「実際にそうなっているのか」「本当にそれでいいのか」といった問いが生まれてきます。このような問いについて考え続けていくこともまた，必要なのではないでしょうか。

**文献にチャレンジ**

広田照幸（2022）『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』筑摩書房

第Ⅲ部 Part

# これからを教育学する

Chapter

10　学力／能力を教育学する
11　学校と地域を教育学する
12　ジェンダーとセクシュアリティを教育学する
13　テクノロジーを教育学する

## Introduction●第Ⅲ部　これからを教育学する

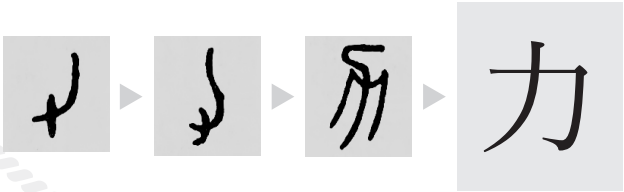
この部であなたが目の当たりにするのは，これからの社会を生きる子どもたちが直面する切実な，現在進行形の問題です。そして同時に，教育学者たちも簡単には答えが出せない難問でもあります。Ⅰ部で鍛えた概念と，Ⅱ部で史実に学んだ経験を生かして，「これからの教育」を考える教育学的思考に取り組んでみましょう。

# 学力／能力を教育学する

第10章 Chapter

## Quiz クイズ

この章の主題になっている学力と能力，どちらも「力」という漢字が入っています。小学校 1 年生で学習する基礎的な漢字です。この「力」という漢字の由来は **a.**〜**d.** のどれでしょうか。



**a.** 農具の鋤（すき）の形をかたどったもの　**b.** 牛の形をかたどったもの
**c.** 筆の形をかたどったもの　**d.** 剣の形をかたどったもの

（出所）　小川ほか 2017 より作成。

★本章の学習をサポートするウェブ資料は，右の QR コードよりご覧いただけます。

## Answer クイズの答え

**a.** 農具の鋤の形をかたどったもの

地面を耕すのに鋤が用いられていたことから，転じて，鋤の形が「ちから」の意で用いられるようになったと考えられます。「ちから」そのものは見えませんから，「ちから」がはたらく様子を描写したということかもしれません。そんな肉体労働のさまから生まれた文字が，学力や能力などという，より抽象的，知的になにかをなす精神の「ちから」を表現する際にも使用されるようになりました。

## Chapter structure 本章の構成／関連する章

**1　学力という難題**
Keywords
学力論争／態度／学力テスト

**2　資質・能力／コンピテンシー**
Keywords
「新しい能力」／コンピテンシー／VUCA

**3　格差の再生産**
Keywords
メリトクラシー／教育格差／ペアレントクラシー

［関連する章］

第 1 章
知に
恋い焦がれる学び

第 6 章
大衆化する
教育

第 4 章
学校という難問

## Goals 本章の到達目標

1. 学力や能力という言葉の教育学における含意を知る
2. 現代の学力政策や教育課程政策の動向を知る
3. 学力・能力に関わる社会問題について自分なりの見解をもつ

## Introduction 導入

人間力って言わないで……

ナナ「そういえばさ，ケイタくんって一般入試でこの大学に入ったんだっけ？」

ケイタ「うん。ああ，よみがえる灰色の受験勉強の日々……」

ナナ「あはは。でも確か，ケイタくんって，推薦入試にもチャレンジしてなかった？」

ケイタ「そうなんだけど，倍率 1.1 倍くらいだったのにまさかの不合格で，それで一般入試に再チャレンジしたってわけさ」

ナナ「あらまあ。お疲れさまでした」

ケイタ「ねぎらいのお言葉どうも。そうだね，受験勉強は確かに疲れた。それ以前に，推薦入試に落ちたときのダメージがものすごく大きかったしね。一般入試に気持ちを切り替えるの大変だった」

ナナ「そうだったんだ」

ケイタ「推薦入試って内申点と面接じゃない？ それで落ちるってなんか，高校のときの自分の経験とか，ぼくの人柄とか，とにかくまるごと全部ダメ，みたいに言われた感じがしてさ」

ナナ「おおう……。そんなことはないと思うけど。ただ，ペーパーテストで測れる学力って限定的だからね。内申書や面接で，それで測れない能力をみたかったんだろうね」

ケイタ「テストで測れない能力って，『人間力』みたいな？」

ナナ「いやまあ，そうなんだけど，ただ学力っていうのもいろんなとらえ方があって，『人間力』みたいなものも含んだり含まなかったりして……。ああ～，なにから説明すればいいの!?」

学力，能力，人間力……　それっていったいなんのこと？

## 問い 「親次第」の社会を生きるつらさとは？

メリトクラシー社会とは，能力（知能と努力）によって業績を達成した者が支配する社会のことでした。しかし本節 **講義** では，業績あるいはその達成を可能にした能力の高低は，その子が生まれ落ちた家庭環境（社会経済的状況：SES）に大きく左右されることを確認しました（教育格差）。

こうした「親次第」の社会のことを，社会学では「ペアレントクラシー」の社会とよぶのですが，それはとても生きづらい社会なのだといわれます。どういうことでしょうか。

**「親次第」の社会**　**ペアレントクラシー**は，イギリスの教育社会学者 P. ブラウンが，メリトクラシーの次の社会体制を描くために用いた造語です。メリトクラシーが「メリット＝知能＋努力」と定式化されたのに対して，ペアレントクラシーは「選択＝富＋親の熱意」とされます。常識的には，子どもの人生の「選択」の幅はその子個人の能力で決まるように思われます。ですが実はその能力は，その子が生まれた家庭の「富」，そしてその「富」を子どもの能力開発のためにどれだけ用いるか，すなわち「親の熱意」次第である，とブラウンはいいます。

努力も親次第？ それは本人次第では？ とあなたは思うでしょうか。しかし，潤沢な資金と親の熱意のもとで育てられる子どもは，親の進学期待を内面化するとともに，学習の成功体験を積み重ね，自信をもって勉強に向かうようになります。また「粘り強く物事に取り組む力」（いわゆる「**非認知能力**」）が子どもの将来を左右する能力として注目されていますが，これを育てると謳う商品やプログラムを利用するにも「富」と「親の熱意」が必要です。子どもが努力できるかどうかも，SES が関与している可能性は大きいわけです。

**教育におけるマタイ効果**　そうして，富める者の子どもは親と同じかそれ以上の社会的待遇を得る可能性を高め，そうでない者の子どもは競争から実質的に排除されることになります。こうした「富める者はますます富み，貧しいものはより貧しくなる」という残酷な現象は，そうした趣旨の聖書の言葉にちなみ「**マタイ効果**」ともよばれます。そうして日本社会は教育的にも，そして経済的にも，二極化しているといいます。

ただ難しいのは，お金に糸目をつけず愛情をもって子どもを育てる親のあり方，家族の形（➡6 章）は，それ自体決して否定できないものだということです。子どもがなにかをできるようになる／わかるようになるのは喜ばしいことです。「格差が生まれては困るので，子どもをあんまり熱心に教育するな」とはいえないですし，そうしたよびかけがうまくいくはずもありません。

**親たちの不安**　とはいえ，子育て・教育に熱心な親たち（とくに中間層）の心中は，希望にあふれているとは限りません。子育ては放任？ それとも厳しく？ いまの住まいは受験に不利？ 公立学校は不安，じゃあ私立？ 塾はどうしよう？ お稽古事は？ 子育て・教育に「これでいいのか？」という不安や迷いはつきものですが，「これからは予測不可能な社会が来る」となるとなおさらです。そんな不安や迷いのなかでの子育てはとても苦しいものでしょう。

これはつまり，教育のあり方と同時に，社会のあり方が問われているということです。「先のみえない競争社会を勝ち抜くためによりよい教育を」という親心はわからないではありませんが，それだけではなく，そもそも厳しく競争しなければ生き残れない社会のほうを批判的にみることが必要なのかもしれません。

☞ **文献にチャレンジ**

神代健彦（2020）『「生存競争」教育への反抗』集英社

## Report assignment　レポート課題

本章の内容を振り返って，下記の 2 つについてそれぞれ 200 字程度でまとめてみましょう。

① 学力（資質・能力）をめぐる論点には，どのようなものがあったか。

② 能力を重視する社会にはどんな問題があるか。

## Further readings　次に読んでほしい本


志水宏吉（2022）『ペアレントクラシー――「親格差時代」の衝撃』朝日新聞出版

白井俊（2020）『OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来――エージェンシー，資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房

田中耕治編（2017）『戦後日本教育方法論史（上）――カリキュラムと授業をめぐる理論的系譜』ミネルヴァ書房

中村高康（2018）『暴走する能力主義――教育と現代社会の病理』筑摩書房

松岡亮二（2019）『教育格差――階層・地域・学歴』筑摩書房

松塚ゆかり（2022）『概説 教育経済学』日本評論社

ヤング，M.（2021）『メリトクラシー』講談社エディトリアル


## Book/Cinema guide　読書・映画案内

© 2018 フジテレビジョン
ギャガ AOI Pro.

『万引き家族』（是枝裕和監督，フジテレビジョン，2018 年）

▶是枝監督が数多く手がける「家族」の物語の 1 つ。格差社会のただなかで，犯罪でつながったこの「家族」の絆は美しく，やるせない。こうした家族を救うために，教育はなにができるでしょうか。あるいはこれは，教育などおよびでない物語，教育の無力さを示す作品なのでしょうか。

# ジェンダーと セクシュアリティを 教育学する

第 12 章 Chapter

## Quiz クイズ

2020 年 12 月に電通ダイバーシティ・ラボがインターネットで行った「LGBTQ+ 調査 2020」では，全国の 20〜59 歳 6240 人のうち，8.9% がセクシュアル・マイノリティでした（本調査では，異性愛者であり，生まれたときに割り当てられた性と本人が認識する性が一致する人をストレート層とよび，ストレート層以外を「LGBTQ+ 層」としています➡3 節）。

さて，この調査では，勤め先や家庭，地域など社会全般において，自分の人権が守られていると感じる人の割合が示されています。ストレート層と LGBTQ+ 層とで，どれくらい差があるでしょうか（2020 年調査）。

（出所） https://www.dentsu.co.jp/news/release/pdf-cms/2021023-0408.pdf

**a.** ほとんど変わらない　**b.** 約 10 ポイント
**c.** 約 20 ポイント　**d.** 約 30 ポイント

★本章の学習をサポートするウェブ資料は，右の QR コードよりご覧いただけます。

## Answer クイズの答え

**c.** 約 20 ポイント

ストレート層では，73.4% が「自分の人権が守られていると感じる」と回答しましたが，LGBTQ＋層全体では 54.8% に留まり，その差は 18.6 ポイントです。他方，パートナーシップ制度のある自治体に住んでいる LGBTQ＋層では 59.8% であり，その差は 13.6 ポイントです。自治体の動きが人権保護や地域の意識改善に対して，一定の後押しをしていると同時に，セクシュアリティによって，人権が十分に保障されていないケースもあります。

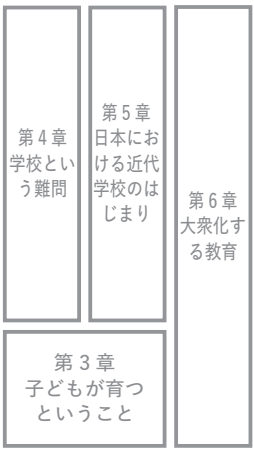
## Chapter structure 本章の構成／関連する章

**1　ジェンダーを教育学する**
Keywords
ジェンダー／フェミニズム／社会的・文化的性差／セクシュアリティ

**2　性のタブーを乗り越える**
Keywords
性教育／人権／包括的セクシュアリティ教育／はどめ規定

**3　多様性を尊重する社会へ**
Keywords
多様性／ケア／マイノリティ／生きづらさ

［関連する章］




## Goals 本章の到達目標

1. ジェンダーとセクシュアリティの視点が明らかにした教育の諸課題を知る
2. 自分や子どもたちの生活と関連づけて，多様な性の尊重について考えることができる

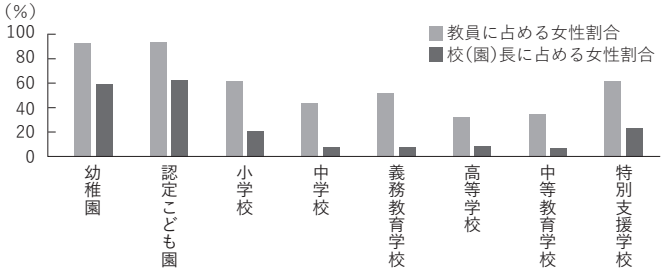
## Introduction 導入

教育は男女平等になっているのか

キヌガワ先生　チアキ　アオイ

短大の教室のスクリーン。保育原理の授業冒頭で，キヌガワ先生がグラフを映し出した。

**初等中等教育機関における女性割合**




（注）・義務教育……初等および前期中等教育（小中学校の教育課程に該当）。
・中等教育……前期および後期中等教育（中学校・高校の教育課程に該当）。
（出所）文部科学省「学校教員統計調査（2019 年度）」より算出。

キヌガワ先生「これは，教育機関で働く女性の割合を示すグラフです。どんな特徴が読み取れるかな？」

チアキ「幼稚園とこども園の先生には，女性が多い！」

アオイ「学校段階が上がると，女性の先生の数が減っていってる」

チアキ「園長先生は女性が多いけど，校長先生は少ない」

キヌガワ先生「なかなか鋭いね。今日は，なぜ女性の先生，とくに管理職が少ないのか，みんなに考えてもらいたいんだ」

・女性教員よりも男性教員のほうが，優秀な人が多いから？
・教員の職場環境や組織文化が，男性の管理職向きだから？
・男性教員のほうが管理職に選ばれやすいような基準があるから？

ジェンダーやセクシュアリティの視点から教育学をみると？

## 問い② 性の知識があることはリスクなの？

性に関する知識を得ることは性交渉の時期を早めてしまう，いわゆる「寝た子を起こす」ことになるという考え方があります。性について知ることや議論することは，リスクなのでしょうか。

わたしたちの日常には，テレビやインターネット上の宣伝やアニメ，ドラマ，漫画などで，性に関する情報が溢れています。児童ポルノや買春等の規制も追いつかない実態のなかで，子どもたちが性被害・性暴力に巻き込まれるリスクも高まっているといえます。性暴力（sexual assault）とは，「**からだと性の自己決定権の侵害**」をさし，望まない妊娠や性感染症の罹患，レイプ，デートDV，セクシュアル・ハラスメントやさまざまな性の商品化などが含まれます。

まさにこのような事態への危機感から，文部科学省による「**生命（いのち）の安全教育**」（「性犯罪に遭わないための生命（いのち）の安全教育について」2021年10月27日）は提唱されるに至りました。

**「生命（いのち）の安全教育」の課題**　「生命（いのち）の安全教育」では，幼児期から小学校低学年にかけて，「水着で隠れる部分」（**プライベート・ゾーン**）を他人に見せない，触らせない，もし触られたら大人に言うことなどを指導します。小学校高学年・中学校では，SNS等を介した知人と会うことの危険や被害に遭った場合の対応について，中学校・高校では，デートDVなどの性被害に遭った場合の相談先について扱います。高校・大学では，レイプドラッグ，酩酊状態に乗じた性的行為等の問題や相談窓口の周知の取り組みが推進されています。

しかし，この教材でも，性的な行為に関する具体的な説明は十分ではありません。その背景には，いわゆる「**寝た子を起こす**」こと

は避けたいとする考え方があります。結果として，子どもたちは，「**からだの権利**」や「何が性的な行為なのか」を十分に理解できないまま，性のネガティブな面ばかりを知り，性暴力から身を守ることを「心がけ」なければならない（落ち度があるから被害者になる）と思い込まされてしまいかねないのです。

**子どもたちがオープンに議論できるようになると……**　オランダでは，2012 年に，特別支援学校を含む，すべての初等教育・中等教育前期（4～15 歳）で性教育が義務づけられました。扱われるのは，①セクシュアリティやジェンダー役割意識にもとづく教育と，②**マイノリティの人権**を尊重する〈性の多様性〉教育です（①は義務化される前から実施）。②は，必要性についての議論を経て，初等教育・中等教育前期それぞれの中核目標に「セクシュアリティや，性の多様性に対して尊重の念をもってかかわることを学ぶ」と記されることになりました。性のあり方を学ぶことは，人間関係を学ぶことであると明示されたのです。

とりわけ興味深いのは，「寝た子を起こす」という主張とは逆に，科学的な知識や根拠にもとづいた性教育によって，性体験の開始年齢が遅くなり，望まない妊娠が減ることなどが実証されたことです。世界保健機関（WHO）ヨーロッパ支部による，11～15 歳の子どもを対象とした調査（2013・14 年実施，2016 年報告）では，オランダは 15 歳の性交渉経験率が，40 カ国（地域）中 36 位。避妊手段の使用は，コンドーム 11 位，ピル 3 位。避妊の知識が豊富で，避妊具を比較的容易に入手できる環境も，子どもたちのリスク回避に役立っていることがうかがえます。

**文献にチャレンジ**

リヒテルズ直子（2018）『0 歳からはじまるオランダの性教育』日本評論社

# 索　引

## 事項索引

●アルファベット
AI 型ドリル教材　213, 214
BMI　221
CSE（包括的セクシュアリティ教育）　198
DeSeCo プロジェクト　167
EBPM（証拠にもとづく適切な教育政策）　164
EdTech　213, 214, 218
Education 2030 プロジェクト　167
GIGA スクール構想　213
GIGA 端末　213, 220
HE（ヒューマン・エンハンスメント）　221, 222
IoT　212
LGBTQ＋　191, 192, 204
MOOC　216, 218
N 高等学校（N 高）　216
OECD（経済協力開発機構）　128, 162, 164, 167
PBL　→問題解決学習；プロジェクト学習
PISA（OECD 生徒の学習到達度調査）　162, 164, 167, 209
SES（社会経済的状況）　171, 172
Society 5.0　212
SRHR（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ：性と生殖の健康と権利）　198
STEAM 学習　213
UNESCO　198
VUCA　167

●あ　行
愛　8
愛国心　153
『赤い鳥』　104
アカデメイア　7
遊び（遊戯）　42, 44
　――の主体性　45
アメリカ新教育　60
生きづらさ　207
池袋児童の村小学校　81, 105
いじめ　145, 183
いじめ防止対策推進法　145
異性愛（主義）　200, 204
一条校　148
一斉教授学　27
一斉教授法　79
イデア　7, 10, 12
イデア界　→真実在の世界
遺　伝　39
生命（いのち）の安全教育　202
意味のつまずき　215
インターセクショナリティ（交差性）　193
ウェルビーイング　167
ウーマン・リブ　192
『エミール』　39
エリート　95, 98

エロス　8
教え込み　42
教える　→教育
『教えるということ』　32
教える技　→教育の技術
落ちこぼれ／落ちこぼし　144, 214
おばさん学校　→デイム・スクール
思い込み（ドクサ）　7, 8, 14
親（保護者）　40, 150, 172, 184
恩　物　43
オンライン学習システム　216

●か　行
皆学主義　73
外国にルーツをもつ子ども　154
科　学　107
画一教育　149
格　差　171, 223
　――の固定化　171
　――の再生産　171
　学力――　164
　教育――　151, 171
　地域――　171
学　識　26
学事奨励ニ関スル被仰出書　73
学　習　24
　――の効率化　214
　――の個性化　212
　STEAM――　213
　協働――　213
　参加型――　138
　ジャストインタイム――　218
　探究――　213, 214
　問題解決――　59
学習機会保障　→保障
学習権　155, 217
学習指導要領　120, 148, 165, 166
学習用具　86
学　制　72, 74
学生・生徒文化　99
『学生叢書』　99
学年制　78
学　力
　――観　162
　――競争　129
　――低下　162
　――モデル　163
　生きて働く――　162
学歴（社会）　149, 170
　――競争　132
　――主義　133
　――偏重　170
過剰一般化　48
家族（家庭）　40
　教育――　100, 104
　近代――　100
課題解決・発見　33
学科（教科）　82
『学級教授術』　80
学　区　72
学　校　27, 39, 54, 56, 62, 64, 72, 86
　――に行かない理由　76
　――の時間　79
　――の社会化機能　57
　――の序列化　151
　――の選抜機能　57, 88
学校改革　58
学校教育法　148
学校系統　95, 116
学校選択制　149, 150
学校適応　184
『学校と社会』　58
活　用　214
家庭　→家族
家庭教育　83, 101
神　8, 22, 25
神の照明説　24
からだと性の自己決定権　202
からだの権利　203
カリキュラム（教育課程）　168

コンピテンシー・ベースの――　168
カーン・アカデミー　216
環　境　39
――調整　222
環境（破壊）問題　137
『監獄の誕生』　62
慣　習　206
感情の共同体　89
観　念　25
管理（教育）　30, 33, 145
危　機　178, 187
記　号　24
キー・コンピテンシー　167
儀式　→行事
規制緩和　148, 152
基礎学力の防衛　162
規　範　206
義務教育　75, 78, 89, 94, 117
義務制　77
教育（教える）　11, 22, 30, 32
――観　82
――の機会均等　117
――の危機　61
――の技術（教える技術）　26, 30
――の事実　106
――の自由化　74, 149
――の大衆化　95
――の地方分権　116, 120, 122
――の中央集権　120, 123
――の統制　75, 120
――の不確実性　27
――の不可能性　25
競争の――　132
経験主義――　162
効率的な――　55
作為主義の――　81
戦後――　120
戦時下――　112
詰め込み――　27, 29, 149
認識の――　42
表現の――　42
分団式――　106
教育委員会　120, 122
教育委員会制度　116
教育印刷術　27
教育改革　148, 185
戦後――　116
戦時下――　113
教育学　30
――的思考　223
教育課程　→カリキュラム
教育基本法　56, 117, 136, 141, 153
教育行政　121, 122
教育勅語　75, 84
教育的タクト　30
『教育に関する考察』　38
教育保障　→保障
教育令（自由教育令）　74, 82
第２次――　74, 82
教員　→教師
教員文化　185
『饗宴』　7, 8, 10
教科外活動　168
教学主義　83
教科学習　162
教科書　86
教師（教員）　23
――統制　120
――文化　185
学問する――　107
真の――　23, 24
行事（儀式）　88, 112
教　授　30, 33
教職の科学　30
業　績　170, 172
競　争　65, 129, 132, 151
――社会　173
学力――　129
学歴――　132

受験――　134, 144, 149
進学――　144
閉じられた――　144
共通（の）　29, 216, 218
協同性　81
協働的な学び（協働学習）　212, 213
教養　→教養主義；大衆教養主義
教養主義　98, 130
教　練　95
キリスト教　22, 26
規律（権力）　62, 79, 180
均衡化　46
近代学校（教育制度）　54, 72, 74, 78, 82, 196
キンダーガルデン　43
クィア　193, 204
グローバル化　153, 154
訓　育　30, 33
軍国主義（教育）　99, 120
ケ　ア　63, 207
子どもの――　183, 184
経　験　38
敬　虔　26
経験主義教育　162
経験（環境）説　39
経済協力開発機構　→OECD
経済審議会答申　132
経済成長　128
芸術主義　103
形成者　56
啓蒙主義　83
ゲイ・レズビアン・スタディーズ　193
結　婚　207
言語　→言葉
健　康　56, 136, 198, 199
コア・カリキュラム連盟　162
孝　85
公　益　139
公　害　136, 138
――教育　137
公害スタディーズ　138
合科学習　118
後期中等教育　→高校教育
公共（性）　100, 139, 216
公教育　54, 56, 141, 148, 216, 218
高校教育（後期中等教育）　130, 132
高校進学率　129, 134, 144
高校魅力化プロジェクト　188
交差性　→インターセクショナリティ
高卒当然社会　134
国際セクシュアリティ教育ガイダンス　198
国民意識　152
国民皆学　77
国民学校　113
国民の育成（国民形成）　57, 152
国民の権利　117
国連子ども（児童）の権利委員会からの勧告　200
個人主義　60
個人性　43
個　性　105
個性重視の原則　149
子育ての社会化　40
子育ての第一義的責任　40
『国家』　7, 10
国家主義　152
言葉（言語）　24, 28, 48
子ども観　38, 46, 104
子ども期　40
子ども語　48
子ども中心（主義）　39, 40, 60, 100, 104
子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）　155
子どもの最善の利益　40
子どもの貧困対策に関する大綱　183
コミュニケーション能力　169
コミュニティ　219
困　窮　76

コンピテンシー　168

●さ　行
災　害　178
最近接領域　47
サクラマス・ドリーム・プログラム　189
3 観点　166
シェマ　→認知の枠組み
ジェンダー　192, 199
ジェンダーアイデンテイティー　→性自認
ジェンダー・エクスプレッション　→性表現
ジェンダー規範　→性規範
ジェンダー・バックラッシュ　193
ジェンダー・フリー　193
ジェンダー役割　→性別役割
時間割　78, 80
試　験　78, 88
自己活動　43
仕　事　59, 60
資質・能力　166
シスジェンダー　204
自　然　39
慈善学校　55
思想弾圧　95
実学主義　73
実験学校　→ラボラトリー・スクール
実　在　24
児童心理学　46
児童の権利に関する条約　→子どもの権利条約
社　会　40, 56, 58, 60, 62, 144, 168, 170, 172, 206
　医療化――　63
　学歴――　149
　学校化――　63
　高卒当然――　134
　大衆教育――　95, 100
　緩やかな身分――　171
社会化　40
社会改造主義　60
社会経済的状況　→SES
社会（生活）適応主義　60
社会的効率主義　60
社会的養護　40
シャドウワーク　63
就学義務　74, 77
就学放棄　→中途退学
就学目的　131
就学率　77, 94
宗　教　22, 83
習　業　78
自由教育　→大正新教育
自由教育令　→教育令
自由主義　152
習熟論　163
修　身　82
集団就職　129
習　得　214
自由と自治　105
修　養　98
授　業　33
授業時間　80
授業料非徴収の原則　75
受験競争（戦争）　129, 134, 144, 149
準備教育　43
情　意　162
生涯学習　217
『小学教師必携』　79
『小学教師必携補遺』　79
「小学教則」　78
「小学生徒心得」　79
小学校令　74, 77
　第 2 次――　75
少国民　114
証拠にもとづく適切な教育政策　→EBPM
少子化　186

少　女　102
『少女の友』　103
象徴主義　42
助　教　55
職業訓練　133
女子教育　101
女性学　193
女性（女子）差別撤廃条約　193
初等教育　94
進学意欲　134
進学競争　144
人格陶冶　89, 112
人格の完成（向上）　56, 98, 142
仁義忠孝　83
進級制度　78
新教育　→アメリカ新教育；大正新教育
新教育運動　80
人権（教育）　198, 199, 201, 203
真実在の世界（イデア界）　10
尋常小学校　94
新中間層　100
人的能力開発政策　132
しんどい学校　184
臣　民　85
真　理　7, 10, 14, 23, 25
　内なる――　25
スタディ・ログ　220
スマート・ドラッグ　221, 222
3R's　162
性　194
　社会的・文化的――　194
　身体的・生物学的な――　204
生　活　54, 85, 112, 162, 180, 215
生活教育　105
生活態度　162
生活綴方　→綴方
性規範（ジェンダー規範）　194, 196
性教育　198, 200, 203
性差別　95, 192
性自認（ジェンダーアイデンテイティー）　204
清純主義　103
聖　書　22
性的指向（セクシュアル・オリエンテーション）　204
性と生殖の健康と権利　→SRHR
生徒の学習到達度調査　→PISA
性表現（ジェンダー・エクスプレッション）　204
性別役割（ジェンダー役割）　40, 100, 196, 203
性暴力　202
『世界図絵』　28
世界の認識　46
石　盤　86
石　筆　86
セクシュアリティ　193, 203, 204
セクシュアル・オリエンテーション　→性的指向
セクシュアル・マイノリティ　191
接　続　95
セルフケア　199
全国学力テスト　165
専　心　31, 42, 45
選　抜　57
『ソクラテスの弁明』　14
素質（遺伝）説　39
卒業式　88
ソフィスト（知者）　6, 14

●た　行

怠学（学力不振）　147
『大教授学』　27, 29
対向的協働文化　185
大衆教育社会　95, 100
大衆教養主義　130
大正新教育（大正自由教育）　100, 105, 106, 112
態　度　162
態度主義　163

対　話　7, 14
多職種協働　183
脱学校論　63, 147
タブラ・ラサ　38
多文化共生　155
魂の目　10
多様性　198, 203, 206
探究（学習）　214, 213
探究心（知への愛）　14
単元学習　32
男女共学　116
男女共同参画社会基本法　193
男性学　193
知（知恵；知性）　9, 10, 14, 82
地域（社会）　178, 187, 183
地域学　188
知　育　82
遅　刻　79
致　思　31
智識才芸　83
知識偏重　166
知識や技能（スキル）　166
知者　→ソフィスト
地方教育行政の組織及び運営に関する法律　123
チーム学校　183
チャータースクール　150
忠　85
中央教育審議会（中教審）　212
中　卒　129, 134
中等教育学校制度　149
中途退学（就学放棄）　94
長期欠席　104, 105, 146
調　節　46
綴方（生活綴方）　104, 105
『綴方生活』　105
つまずき　163, 165, 214
ディアレクティケー　→哲学的問答法
定時制高校　130
定時法　78
デイム・スクール（おばさん学校）　54
適格者主義　129
テクノロジー　220, 223
テスト　151, 162, 164
　確認――　165
　指導のための――　165
　政策のための――　165
データ駆動型教育　220
哲　学　9, 17, 107
哲学的問答法（ディアレクティケー）　11
てびき　33
寺子屋　86
天　皇　85
同　化　46
等級制　78, 88
洞窟の比喩　7, 10
登校拒否　147
童　心　104
動的教育論　105
道徳（教育）　82, 85, 155
道徳性の育成　→徳育
道徳的品性の陶冶　31, 33
道徳の時間　120
陶　冶　30, 31, 33, 89, 112
徳　育　82
徳育論争　83
ドクサ　→思い込み
徳　性　26
飛び級入学制度　149
トランスジェンダー　204
ドルトン・プラン　60, 107

●な　行

日教組　→日本教職員組合
日本教職員組合（日教組）　121
日本国憲法　117, 118
人間観　22
人間関係　199

人間形成　38
人間存在の目的論　23
認識の能力　163
認知的葛藤　46
認知の枠組み（シェマ）　46
認知発達理論　46
ネットの高校　216
年齢制　88
能動性　81
能　力　163, 166, 168, 172
　――開発　221
　――主義　132, 170

●は　行
『パイドン』　10
バウチャー制度　150
八大教育主張講演会（八大教育主張）　105
発達（理論）　46, 48
はどめ規定　200
パノプティコン　62
『ハマータウンの野郎ども』　64
番組小学校　72
汎知学　26
非　行　145, 183
非認知能力　172
ヒューマン・エンハンスメント　→HE
平　等　115, 116, 148, 151, 218
貧困線　182
貧困率　182
フェミニズム　192
不穏さ　15, 17
吹きこぼれ　214
複式学級　106
不就学　76, 155
不知の自覚（無知の知）　7, 14
普通科中心主義　133
普通教育　216, 218
普通選挙　95
不登校　76, 146, 155, 183
　脱落型――　147
プライベート・ゾーン　202
フリースクール　147
ブルーナー仮説　47
プロジェクト学習（PBL）　59
プロジェクト・メソッド　60, 107
文　化　81
　――の享受　98
　共通――　219
文化的排他性　154
『分団式各科動的教育法』　105
分団式教育　106
『分団式動的教育法』　105
ペアレントクラシー　172
並行説　163
ヘルバルト派　30
偏差値中心主義　133
弁論術　6
保育の5領域　199
包括的セクシュアリティ教育　→CSE
保護者　→親
ポジティブ・アクション　197
保　守　61, 121
保守主義　152
保　障　29
　学習機会――　217
　学習権――　155, 217
　教育（の機会）――　27, 77, 117, 148, 151, 216, 218
　子どもの最善の利益の――　40

●ま　行
マイノリティ　203, 207
マタイ効果　173
学　び　6, 9, 33
　――の自律化　213
　協働的な――　212, 214
　個別最適な――　212, 214
　自由な――　27, 32
　主体的な――　17

マルクス主義　99
水俣病　136
ミニマム・エッセンシャルズ　162
耳穴っ子　64
未来の教室事業　213
民主主義　59, 60, 118
『民主主義』　118
『民主主義と教育』　59
民主制　6
民主的専門性　185
民主的な教育制度　116
民本的家庭　101
向け変えの技術　11
無知の知　→不知の自覚
メトーデ　36, 42
メリトクラシー　170
問題解決学習（PBL）　59
問題解決学力　162
問題行動　184

●や　行
薬　物　222
ヤングケアラー　183
遊戯　→遊び
幼稚園　43
要保護児童　40
読み・書き・算　162
四大指令　116

●ら　行
ライフコース　128
ラーニング・コンパス　167
ラボラトリー・スクール（実験学校）　58
リスキリング　217
理　性　10
理性の年齢　39
立身出世主義　73
リテラシー　164, 167
良妻賢母　101
臨時教育審議会（臨教審）　148
レディネス　47
レトリケー　6
錬　成　112
労働力　132
6・3・3制　116

## 人名索引

●あ　行
アウグスティヌス　23, 24, 31
青木誠四郎　162
アガトン　8
浅野大介　213
アレント，H.　61
安藤聡彦　138
石井英真　214
稲葉宏雄　163
イリイチ，I.　63
ヴィゴツキー，L. S.　46
ウィリス，P.　64
上野正道　58
及川平治　105, 106
大村はま　32
落合恵美子　100

●か　行
ガダマー，H.-G.　45
勝田守一　163
加藤弘之　83
苅谷剛彦　32
苅谷夏子　32
木下竹次　80
キルパトリック，W. H.　60
久冨善之　144
倉橋惣三　43
香山健一　149

国分一太郎　162
コメニウス，J. A.　26, 28
小山静子　101

●さ　行
齋藤純一　216
小砂丘忠義　105
佐藤学　60
サンデル，M.　170
清水睦美　179, 180
スコット，M.　79
鈴木大裕　151
鈴木三重吉　104
ソクラテス　6, 8, 10, 14

●た　行
田中不二麿　83
デューイ，J.　58, 107, 118
東井義雄　187

●な　行
永井玲衣　16
中内敏夫　163
中村瑛仁　184
西岡昭夫　137
新渡戸稲造　98
野村芳兵衛　81, 105

●は　行
パーカースト，H.　60
林多一郎　79
ピアジェ，J.　46
広岡亮蔵　163
フォン・ケーベル，R.　98
フーコー，M.　62
ブラウン，P.　172
プラトン　6, 8, 10, 14
ブルーナー，J. S.　47
ブレイク，E.　207
フレーベル，F. W. A.　42
ベイリー，R.　222
ペスタロッチ，J. H.　30, 36
ベル，A.　55
ベルクソン，H.　107, 107
ヘルバルト，J. F.　30

●ま　行
松岡亮二　171
松下佳代　166
溝上慎一　59
峰地光重　105
宮本憲一　136
元田永孚　83
諸葛信澄　79

●や・ら行
ヤング，M.　170
ランカスター，J.　55
ルソー，J.-J.　38
ロック，J.　38

【y-knot】
これからの教育学
*Education Studies for the Coming Era*

2023 年 9 月 30 日 初版第 1 刷発行

著　者　神代健彦（くましろたけひこ）・後藤篤（ごとうあつし）・横井夏子（よこいなつこ）
発行者　江草貞治
発行所　株式会社有斐閣
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17
https://www.yuhikaku.co.jp/
装　丁　高野美緒子
印　刷　株式会社精興社
製　本　大口製本印刷株式会社
装丁印刷　株式会社亨有堂印刷所

落丁・乱丁本はお取替えいたします。定価はカバーに表示してあります。
©2023, Takehiko KUMASHIRO, Atsushi GOTO, Natsuko YOKOI.
Printed in Japan. ISBN 978-4-641-20006-7

本書のコピー，スキャン，デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは，たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

JCOPY 本書の無断複写（コピー）は，著作権法上での例外を除き，禁じられています。複写される場合は，そのつど事前に，（一社）出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。